

つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり（3年次）
～子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための
教師の働きかけを通して～

図工科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」とは

図工科では、子どもが友達とかかわることで、様々な表し方があることに自ら気づき、新たに発想が広がったり、構想を練り直したりするなど、表現を高めることにつながると考えている。そこで、図工科のめざす授業は、友達とかかわりながら、形や色、イメージなどを基に、「この材料や用具を使って、自分は～なふうにつくりたい（表したい）」という思いをもち、感性や想像力を働かせながら、意欲的に造形表現することができるものだと捉えている。

図工科における「つながり」とは、造形的な見方や考え方を働かせながら、「この作品はどうやってつくったのかな？自分も早くやってみたいな」と題材とつながったり、「この材料はどの材料と組み合わせさせてみたらよいか」「この用具をうまく使いこなせるようになりたいな」とそこで使われる材料や用具とつながったりすることである。また、友達と「こうしてみたいんだけど、どう思う？」「もっとこうしてみたらどう？」とアイデアを出し合ったり、「ここを押さえてくれないかな」と協力し合ったり、「～するとうまく彫れるよ」「～さんみたいに彫るにはどうしたらいいのかな？」と用具を扱うコツを教え合ったりするなど、友達とつながることでもある。このように、題材、材料、用具などの学習対象や友達とつながる中で、「コツをつかんで思い通りに彫れるようになった。～な形を彫ってみようかな」と知識や技能を高めている姿や、「これとこれを組み合わせたらもっと面白い形ができそう」と発想を広げている姿が見られるなど、手や体全体を働かせながら「～を表すためにどうしたらいいかな。こうしようかな。いや、もっとこうしてみよう」と試行錯誤しながら活動に没頭している姿を、知的な深まりを楽しんでいる姿だと考える。

以下、子どもが友達の表現に『価値』を見出すことができるようにするための教師の働きかけについて述べる。

1 子どもを「共通の土台」に乗せるための働きかけ

○導入時の働きかけを工夫することで活動への意欲や見通しをもたせる

子どもが意欲をもって取り組めるよう、導入時の題材との出合わせ方を工夫する。本時では、最初に、完成作品（彫り終えた版木と刷り上げた木版画作品）を提示することで「すごい」「自分もやってみたい」という意欲をもたせるようにする。また、既習の紙版画の工程と比較させたり、カッターナイフやのこぎりに取り組んだ際の注意事項を想起させたりしながら、学習内容や安全面での約束を確かめさせたり、初めて扱う彫刻刀を試す活動を、短い線、長い線、曲線というように細分化して少しずつ、十分にとることで、見通しをもち安心して取り組むことができるようにする。このような働きかけが子どもを「共通の土台」に乗せるために有効であると考えられる。

○活動の様子から子どもの困り感を見取り、全体に広げて解決していく

活動時の個々の困り感を見取って(事前に想定して)、「曲線が上手く彫れなくて困っているんだけど、何かよい方法はないかな？」とグループや全体に投げかけたり、多くの子どもに共通した困り感を見取って「何か困ったことはなかった？」と投げかけたりする。そうすると、子どもからは、「板の方を回しながら彫れば上手くできたよ」「板を回す向きを反対に変えてみたらどうかな」「少しずつ回して少しずつ

つ彫ると上手くできるかも」などとコツやアイデアが出ると考える。そこで、教師は、「板を回しながらってどういうこと？やって見せてくれない？」「少しずつ回すってどのくらいのこと？作品を使って説明してくれない？」などというように広げる返しをおこない、解決していく。本時では他に、彫刻刀の持ち方や彫る時の角度などで困るであろうことを事前に想定し、解決の手がかりとするために資料を掲示しておくようにする。本時の主たる活動である彫刻刀を試す時間を十分にとること自体も、子どもの困り感を解消し、本題材の活動に取り組むにあたって「共通の土台」にのせる働きかけとなっていると考える。

2 子どもが友達の表現に「価値」を見出すことができるようにするための働きかけ

○ねらいに沿って価値付けたり共感したりする

図工科では、子どもの意欲を持続させたり、自信をもたせたりするために、子どもの造形的な気付きや造形表現をタイミングよく価値付けたり、共感したりする。本時では、彫刻刀の彫りを試す活動の中で、刃の前に手を置かない、使わない彫刻刀はすぐ片付けるなど安全面での約束が守れている子どもや、曲線を彫る際に共有したコツを取り入れて彫ったり、自分なりに工夫して彫り始められている子どもを認めて、ねらいに沿って価値付けたり共感したりする。そうすることで、子どもは「これでよかったんだ」「もっと工夫をしよう」と自信や意欲をもって活動を続けることができる。また、その様子を見ていた周りの子どもも、「私も～さんみたいな彫り方をしてみよう」というように、活動に意欲的になる。このように、ねらいに沿った価値付けや共感をすることで、子どもが友達の表現に「価値」を見出すことができるようになると思う。

第4学年A組図画工作科学習指導案

2021年12月7日(火) 3校時 第一図工室

授業者 松田 陽一

1. 題材名 ほってすって見つけて

2. 指導観

本題材は、彫刻刀の扱いに慣れながら、彫刻刀の種類による彫り跡の違いを捉え、思いに合わせて彫り方や刷り方を工夫して木版画に表す活動である。木版画制作では、彫刻刀を扱うに際しての安全については十分配慮しつつ、使う彫刻刀の種類や彫り方を変えることで様々な表現(彫り跡)をつくり、彫る楽しさを味わいながら造形表現活動ができると考え、本題材を設定した。なお、本題材は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の内容〔A表現〕を主として受けている。

本学級の子どもは、版画については2学年時に紙版画の学習をし、用具については3学年時にカッターナイフ、4学年時の1学期にのこぎりの学習をしている。版をつくって刷るという版画特有の制作手順は理解できているし、カッターやのこぎり等の刃物でしか表すことができない造形作品のよさや面白さがあることも実感できており、これらの経験からある程度の見通しをもって木版画制作の学習に向かうことができると考える。本題材でも、彫刻刀は子どもにとって新たな用具であるが、これまでのように自分で何度も試したり友達とかかわり合ったりしながら巧みさを身に付け、自分のイメージに近づくような工夫をしていってほしいと考えている。

指導にあたっては、まず、子どもに版木の裏面で彫ることを試さしながら彫刻刀に慣れさせるとともに、彫刻刀の種類(丸刀・三角刀・平刀・切り出し)による表現(彫り跡)の違いを確かめさせるようにする。その後、作品の下絵として自分の顔を描かせ、カーボン紙で版木に写させる。彫り始める前に、2種類の彫り方の違い(線彫りは下絵の線を彫り、浮き彫りは下絵の線を残して周りの面を彫る)について版木と木版画作品を比較させながら伝え、子どもが描いた自画像のそれぞれの部位に適した彫り方を選んで彫りに取りかからせる。版木と木版画作品は制作中も見本として掲示し、刃の種類によって彫り跡の感じが変化するを生かし、表したい形や感じに合うように、彫刻刀を使い分けること、浮き彫りをする際は、刷った時に彫り跡も立体的な描画表現として生かせるように、彫る向きを部位ごとにそろえて彫ること、等々を子どもが意識して取り組めるようにする。刷りに移る前には、紙版画などでの刷りの体験と結び付けながら、木版画での刷り方を確かめさせるようにする。刷る際には、一度刷ってみて自分が表したい感じに刷り上がっているかを確かめさせるようにする。そして、更に自分の表したい感じに近づくように彫り足してからもう一度刷らせ、表現を深められるように促す。完成後は、自分や友達作品を見合っただけで気付いたことを伝え合い、感じ取ったよさや表し方の工夫を交流できるようにする。

本時は本題材の導入にあたり、子どもが初めて出会う用具・彫刻刀の安全な使い方を知り、版木の裏面で彫ることを試しながら彫刻刀の扱いに慣れると共に、刃の種類による彫り跡の違いを確かめる時間である。まず、彫り終えた版(版木)と刷り上げた木版画作品と提示しながら全工程を示し、既習の紙版画の工程と比較させながら、本題材を通してのゴールイメージをつかませる。続いて、「彫刻刀の『安全な』使い方を知ろう」という課題を提示し、既習のカッターナイフやのこぎりを扱った際の注意事項を想起させながら、「人に刃を向けない」「ふざけない」「使わない時は片付ける」といった安全面での共通する約束を全体で確かめさせる。カッターナイフやのこぎりの刃の動きとの違いにも着目させ、彫刻刀を扱う際は「刃の前に手を置かない」という、自分がけがをしないための安全面での約束についても併せて確かめさせる。その上で、自分の彫刻刀を1本ずつ手に取り、刃先の形状によって、丸刀・

三角刀・平刀・切り出しの4種類に分かれていることを確かめさせ、ワークシートに整理させる。版木（板）を配った後、子どもが安全に彫りの練習に取りかかれるよう、まず、教師が彫刻刀の持ち方、版木へのあて方（角度）を掲示資料で説明してから、実際に彫りを演示して見せる。本時で練習する彫刻刀は、使う機会の多い丸刀大、丸刀小、三角刀とし、それぞれ①短い線、②長い線、③曲線の順で練習させるようにする。①短い線、②長い線の練習では、彫刻刀を持つ手が空中に浮いていたり、彫刻刀の上の部分を持ってしまっていたりして、彫刻刀が上手く扱えない、版木にあてる角度が急なために刃が板に刺さって力を入れても彫り進められない等で困ることが想定されるため、そうした子どもには、掲示資料を示して支援をおこなっていく。③曲線の練習にあたっては、教師が掲示資料を使いながら、曲線を彫ろうとしたら刃の進む向きもカーブして「刃の前に手を置かない」という約束通りにはできない困った状況になるということを示し、どうすれば「刃の前に手を置かない」で彫ることができるかを、子どもに考えさせるようにする。「版木を回しながら彫ればいい」という考えが一部の子どもからは出てくると予想されるため、それに対して「それってどういうこと？」と問い返し、子どもに実演を交えたりしながら詳しく説明させることで、全体にその工夫を広げる。ただ、その通りに彫り始めても、回す向きや彫る向きが逆になっている、一度に回す角度や彫る長さが大き過ぎる等で上手く彫れなくて困るといったことが想定されるため、そうした場合には、周りの子どもに働きかけて一緒によい方法を考えさせたり、きれいな曲線が彫れている子どもに実演させながら説明させたりして、困り感の解消を図るようにする。丸刀大、丸刀小、三角刀と彫る練習を重ねる中で、刃の前に持ち手でない方の手を置かない、使わない彫刻刀はすぐ片付けるなど安全面での約束を守れている子どもや、曲線を彫る際に共有した工夫を取り入れて彫り始められている子どもは、そのよさを認めて価値付けていくようにする。三角刀の彫りの段階で、刃の種類による彫り跡の違いについて問いかけて考えさせる。丸刀と三角刀の彫り跡の違いがはっきりしており、2つを比べることで、それぞれの特徴を明らかにすることができる。返ってきた答えに対して、それぞれどんなところを彫る時に役立ちそうかと問い返して更に考えさせた後、広い面を彫る時や細かい部分を彫る時に2種類の彫刻刀を使い分ければよいというように整理し、今後の作品制作で生かせるようにする。本時の最後に、授業の最初と比べてふりかえり、できるようになった姿を価値づけることで、次時の彫りを試す活動へとつながるようにする。

3. 目標

- (1) ・彫刻刀を使って、彫り方を試したり、刷って確かめたりするときの感覚や行為を通して、形の感じ、形の組合せによる感じなどが分かる。
 - ・彫刻刀を適切に扱うとともに、版画の用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
- (2) ・彫刻刀で板を彫って感じたことや、生活の中で感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
 - ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- (3) ・進んで彫刻刀を使って彫り方を試したり、刷って確かめたりしながら版に表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀を使って、彫り方を試したり、刷って確かめたりするときの感覚や行為を通して、形の感じ、形の組合せによる感じなどが分かっている。 彫刻刀を適切に扱うとともに、版画の用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀で板を彫って感じたことや、生活の中で感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 	<p>つくりだす喜びを味わい進んで彫刻刀を使って、彫り方を試したり、刷って確かめたりしながら版に表す学習活動に取り組もうとしている。</p>

5. 指導と評価の計画（全8時間）

時数	ねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等				
		知	技	思	態	
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 木版画の仕組みを確かめる。 彫刻刀の使い方を知る。 版木の裏面で彫ることを試しながら彫刻刀の扱いに慣れると共に、丸刀、三角刀、平刀、切り出しの彫り跡の違いを確かめる。 	◎ 観察 対話 ワークシート	○			↓ ◎ 観察 対話 作品 ワークシート
2						
3	<ul style="list-style-type: none"> 作品の下絵を描く。 下絵をカーボン紙で版木に写す。 浮き彫り・線彫りの違いを知り、描いた絵の部位に適した彫り方を選んで彫り進める。 刃の種類により彫り跡の感じが変わることを生かし、表したい形や感じに合うように、彫刻刀を使い分け、工夫して彫り進める。 	○	◎ 観察 対話 作品	○		
4						
5						
6	<ul style="list-style-type: none"> 紙版画などでの刷りの体験と結び付けながら、木版画での刷り方を確かめる。 彫った版を刷って、表したい感じになっているか確かめる。 		○	◎ 観察 対話 作品		
7						
8	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の作品を見合い、よさや表し方の工夫を感じ取り、気付いたことを伝え合う。 			◎ 観察 対話 ワークシート	◎ 観察 対話 作品 ワークシート	

○ … 題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎ … 題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6. 本時の指導（本時1／8）

(1) 目 標 彫刻刀の使い方を知り、試して扱いに慣れるとともに、種類による彫り跡の違いを見つける。

(2) 評価規準

知彫刻刀を使って、彫り方を試すときの感覚や行為を通して、適切な扱い方が分かっている。また、表された形の感じが分かっている。

(3) 準備物（教師）・版木 ・滑り止めマット ・ワークシート ・掲示資料
（児童）・彫刻刀

(4) 本時の展開

○学習活動 ・主な児童の反応	○教師の働きかけ □評価規準（評価方法）
<p>1. 本時の活動について知る</p>	<p>○完成作品（版木と版画作品）を見せながら全工程を示し、既習事項と比較させながら、本題材を通してのゴールイメージをつかませる。</p>
<p>ちょうこく刀の 安全な 使い方を知ろう。</p>	
<p>2. 彫刻刀の安全な使い方を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カッターやのこぎり等の刃物を人に向けたらいけない。ふざけるのもだめ。使わない時は片付けておく約束だったよ。 ・丸刀は大小2つあるね。刃先がVになっているのが三角刀なんだね。 <p>3. 彫刻刀でいろいろな彫り方を試す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先に力が入らなかったけど、彫刻刀を短く持ったら力が入って彫りやすくなったよ。 ・曲線を彫ろうとすると刃の向きも曲がってしまっていて危ないな。どうしよう。 ・板を回したら安全に曲線が彫れたよ。もっと彫って円にもできそうだな。 ・板を回そうとしても体の方が回って上手く曲線が彫れなかったけど、友達のアドバイスを聞いて、時計周りに板を回してみたら、彫りやすくなったよ。 ・～さんが少しずつ板を回してきれいな曲線を彫っていて、先生に褒められていたよ。私も～さんみたいな彫り方をしてみようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を想起させながら「人に刃を向けない」「刃の前に手を置かない」等の約束を全体で確かめさせ、安全に取り組めるようにする。 ○自分の彫刻刀を見て確かめることで、刃先の形状によって、丸刀・三角刀・平刀・切り出しの4種類に分かれていることをつかませる。 ○子どもが安全に彫りの練習に取りかかれるよう、教師が彫刻刀の持ち方、版木へのあて方を掲示資料で説明し、彫りの演示をする。 ○練習で使う刃は、丸刀大、丸刀小、三角刀とし、①短い線、②長い線、③曲線の順で作業工程を細分化して練習させることで、確実に彫刻刀の扱いに慣れていけるようにする。 ○③曲線の練習の前に、どうすれば「刃の前に手を置かない」で彫ることができるかを、子どもに考えさせ「版木を回しながら彫ればいい」という工夫を全体に広げるようにする。それでも上手く曲線が彫れない子どもがいた場合は「～さんが上手く曲線が彫れなくて困っているんだけど、何かよい方法はないかな？」とグループや全体に投げかけて考えさせたり、できている子どもに実演させながら説明させたりして、困り感の解消を図る。 ○刃の前に手を置かない、使わない彫刻刀はすぐ片付けるなど安全面での約束を守れている子どもや、曲線を彫る際に共有した工夫を取り入れたり自分なりに工夫したりして彫り始められている子どもは、そのよさを認めて価値付けていくことで、周りの子どもが「私も～さんみたいな彫り方をしてみよう」というように、子どもが友達の表現に「価値」を見出すことができるようにする。
<p>4. 彫り跡の違いについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸刀の彫り跡と比べて三角刀の彫り跡は細いな。細かい部分が彫りやすそう。 ・丸刀の大きいは広い彫り跡だな。一気にたくさん彫る時に役立ちそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丸刀と三角刀の彫り跡の違いについて問いかけて考えさせる。返ってきた答えに対して「どんなところを彫る時に役立ちそう？」と返して更に考えさせた後、広い面や細かい部分を彫る時に使い分ければよいというように整理し、今後の制作で生かせるようにする。
<p>5. ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は心配だったけど、くねくねの線まで彫れるようになって自信がついたよ。 	<p>知彫刻刀を使って、彫り方を試すときの感覚や行為を通して、適切な扱い方が分かっている。また、表された形の感じが分かっている。</p> <p style="text-align: right;">（観察・対話・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の最初と比べてふりかえらせ、できるようになった姿を価値づけることで、次時の彫りを試す活動へとつながるようにする。

